



今井小だより

横浜市立今井小学校

令和3年4月30日

学校だより 5月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き！今井大好き！」

主体的・対話的で深い学び

学校長 森脇 信行



昭和3年の全校写真

新年度を迎え、早くも一か月がたち、校庭の木々も緑の葉が生い茂る5月を迎えます。

また、本日（4月30日）は明治13年に開校した今井小学校の141回目の創立記念日です。昨年はコロナ禍の中、140周年を迎え、無事に周年行事を行うことができたことに対して、改めて感謝申し上げます。

今井小学校は、都筑郡市沢学校より分立し、地藏堂を修理増築して、都筑郡今井学校として開校しました。当時の児童数は男子25名、女子8名の33人。敷地は二俣川村今井の共有地で面積386㎡（学校のプールと同じくらい）、校舎は45㎡、教室外に教員室と物置合わせて30㎡でした。校章は昭和22年、校歌は創立90周年を記念して、昭和46年に制定されました。そして、2回の場所変更を経て、昭和51年に今の校舎が建てられ、現在に至ります。

明治から平成までの4つの時代の中で、たくさん子どもたちが今井小学校で育ち、巣立っていきました。そして、これからの時代においても、変わらずに、未来を創る子どもたちを送り出していくのだらうと信じています。昨年度から、これからの時代の子どもを育成する、新たな教育が始まりました。新学習指導要領では、子どもたちに身に付けてほしいことについて、次の3点を示しています。

- ① 生きてはたらく「知識・技能の習得」
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力の育成」
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」

また、これらの能力を培うため、学習形態の「主体的・対話的で深い学び」への転換を挙げています。「主体的」とは、学ぶことに興味・関心をもつ、キャリア形成と関連付ける、粘り強く取り組む、学習活動を振り返って次につなげるなどのことです。「対話的」とは、子ども同士の協働、大人との対話、先人の考えを手掛かりにすることなどを通して、自分の考えを広げ深めることです。「深い学び」とは、こういった習得・活用・探求という活動を通じた様々な学びの過程の中で深く理解し、自らの考えを形成したり、解決策を考え、自分の思いを基に創造したりすることに向かう学習のことです。

本校でも、このことを研究の根っことして授業改善を図り、いっそう時代の変化に対応した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研鑽を積んで参りたいと思います。